

## 令和6年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育  
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	担当教員	対象課程	開講期	曜日	講時	言語	分類	授業の目的と概要
									①～⑤	
知的財産セミナー	特許制度・特許調査	2	戸次 一夫	修士課程等	第2学期	木	3	日本語	①④⑤	特許制度と社会実装との関係について理解した上で、新規の研究開発に向けた情報収集、強くて広い特許権の取得、特許権の被疑侵害者への対応、特許権侵害の回避といった様々な場面で要求される特許情報の取得・活用能力の獲得を目的とする。
融合領域研究合同講義	融合領域研究合同講義	2	日笠 健一	修士課程等	第2学期	水	3	日本語	①	学際的・異分野融合的研究領域の進展に伴い、学際的な視野を持つ優れた若手研究者を養成するために、東北大学を代表する研究者に1回ずつ問題意識、ブレイクスルー、先端的研究事例、研究経緯、体験談等を語ってもらうことにより、最新の学問の進展を俯瞰的に理解し、学際的・横串的な視野の重要性を体感する。
多文化理解PBL 特別演習	多文化理解PBL 特別演習	2	末松 和子	修士課程等	第1学期	水	2	日本語、補 完的に英語 使用	①④⑤	世界が直面する共通の課題をテーマに、留学生と国内学生がディスカッションやグループワークを通して学び合う課題解決型の演習です。言語や文化の壁を越えて、相互理解を深め、多角的な視点で物事を見る力、また、誰も取り残されることのない「多文化共生社会」を創るために必要な行動力や発信力を身につけます。やさしい日本語、また英語を補完的に使いながら、協働プロジェクトに取り組む中で、チームワークの意義や価値を理解します。特に、大学院生には、リーダーシップを発揮し、チームをまとめる役割を期待します。
グローバル・ コミュニケーション 協働演習	多文化理解PBL 特別演習	2	末松 和子	修士課程等	通年 (前・後期)	水	5	英語	③④	文化背景の異なるチームメンバーと課題解決型の協働プロジェクトに取り組むことで、異文化理解力、コミュニケーション力、チームワーク、リーダーシップ、自発性、企画力、創造力、行動力などの、国際社会で活躍するために必要なグローバル・コンピテンシーを身につけます。今学期は、日本のポップカルチャーの「お笑い」をテーマとし、吉本興業等とのコラボレーションを授業に取り入れながら、世界各国のユーモアに見る価値観の相違性或類似性に対する理解を深めます。チームでグローバルなお笑い作品を作る中で、国際的な環境で協働する力を身につけます。大学院生には、ファシリテーターとしてプロジェクトを支援する役割を期待します。
修士インターンシップ・ キャリア実習A	修士インターンシップ・ キャリア実習A	1	猪股 歳之	修士課程等	3クォーター	木	5	日本語	④	就業体験や事前準備を通じて自分の興味・関心や将来のキャリアを明確化し、学生生活や研究への取り組みをより一層充実したものとすることを目的として、博士前期課程・修士課程在学中にインターンシップ・キャリア実習（就業体験を含むキャリア教育）を行う。本科目が対象とするのは「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の定める「タイプ2キャリア教育」または「タイプ3汎用的能力・専門活用型インターンシップ」に該当するプログラムである。

## 令和6年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育  
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	担当教員	対象課程	開講期	曜日	講時	言語	分類	授業の目的と概要
									①～⑤	
修士インターンシップ・キャリア実習B	修士インターンシップ・キャリア実習B	2	猪股 歳之	修士課程等	3クォーター	木	5	日本語	④	就業体験や事前準備を通じて自分の興味・関心や将来のキャリアを明確化し、学生生活や研究への取り組みをより一層充実したものとすることを目的として、博士前期課程・修士課程在学中にインターンシップ・キャリア実習（就業体験を含むキャリア教育）を行う。本科目が対象とするのは「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の定める「タイプ2キャリア教育」または「タイプ3汎用的能力・専門活用型インターンシップ」に該当するプログラムである。
大学教授法開発論	大学教授法開発論	2	戸村 理	博士課程等	1クォーター 3クォーター	水	3・4	日本語	①④	皆さんの多くは、博士課程修了後、大学教員としてのキャリアを選択する方が多いかと思います。すると大学で授業を担当する事になります。しかしながら博士課程では、研究の作法は学んでも、授業のあり方（設計、教授法等）を学ぶことは少ないのではないのでしょうか。そのため多くの新任教員は、どのように授業を行えばよいか、初めての授業時に戸惑いを感じる事がしばしばです。この授業では、大学での授業のあり方を学ぶことで、皆さんが大学教員として着任した際に、円滑なスタートができるよう支援することを目的としています。具体的には本学大学院生が、日本の大学で大学教員として授業を担当するにあたり、現代日本の大学教育で求められる基礎的知識を習得し、自分自身で授業を分析・設計・開発・実施・評価する自己省察力を身につけることを目的としています。なお単位修得者には、単位とは別に、大学で教育訓練を受けたことを証明する修了認定書を交付します。
学際研究特別講義I	学際研究特別講義I	1	日笠 健一	博士課程等	3クォーター	水	3	日本語	①	東北大学を代表する研究者に1回ずつ問題意識、ブレークスルー、先端的研究事例、研究経緯、体験談等を語ってもらうことにより、最新の学問の進展を俯瞰的に理解する。これにより学際的・横断的な視野の重要性を体感するとともに、アカデミックなキャリアを追求する上でのヒントを得る。
学際研究特別講義II	学際研究特別講義II	1	日笠 健一	博士課程等	4クォーター	水	3	日本語	①	学際研究特別講義Iに引き続き、東北大学を代表する研究者に1回ずつ問題意識、ブレークスルー、先端的研究事例、研究経緯、体験談等を語ってもらうことにより、最新の学問の進展を俯瞰的に理解する。これにより学際的・横断的な視野の重要性を体感するとともに、アカデミックなキャリアを追求する上でのヒントを得る。

## 令和6年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育  
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	担当教員	対象課程	開講期	曜日	講時	言語	分類	授業の目的と概要
									①～⑤	
学際研究特別研修I	学際研究特別研修I	1	日笠 健一	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語	①③	学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。
学際研究特別研修II	学際研究特別研修II	1	日笠 健一	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語	①③	学際研究特別研修Iに続き、学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。
学際研究特別研修III	学際研究特別研修III	1	日笠 健一	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語	①③	学際研究特別研修IIに引き続き、学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。
学際研究特別研修IV	学際研究特別研修IV	1	日笠 健一	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語	①③	学際研究特別研修IIIに引き続き、学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。
学際フロンティア特別研修	学際フロンティア特別研修	1	日笠 健一	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語・英語	①	自然科学、人文社会科学の様々な研究分野をカバーする学際科学フロンティア研究所の教員による研究発表セミナー。様々な分野の第一線で活躍する若手研究者による分かりやすい最新研究成果の紹介を聞き、討論に参加する。これにより俯瞰的・学際的な視野を養う。

## 令和6年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育  
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	担当教員	対象課程	開講期	曜日	講時	言語	分類	授業の目的と概要
									①～⑤	
博士リテラシーの基礎	博士リテラシーの基礎	2	安藤 晃 ・ 工藤 成史	博士課程等	第1学期 ・ 第2学期	火	1・2	日本語	④⑤	本科目では、博士リテラシーを、博士として（研究者として、人として）生き抜いていくための総合力と捉えます。その中核をなすのは、言うまでもなく研究の遂行能力（研究力）です。そこには、発想力や論理力も含まれます。この資質・能力は、主に研究室の日常を通して磨かれていきます。そして、その殆どが分野を越えて活用できるものなのです。本科目では、このことへの気付きからスタートします。さらに、皆さんが学位を取得した後、アカデミアに進むにしても、企業などに進むにしても、さらに必要とされる資質・能力がいくつかあります。それらは、人と人との関わり合いに絡んでくるものです。身近な人とのコミュニケーション力や、プロジェクト遂行のためのマネジメント力などがまず挙げられます。本科目の主要部分では、これらの資質・能力の底上げを図ることを目指しています。個人の課題から世界の課題まで皆さんそれぞれの問題意識を喚起し、その後の成長の糧となることや、異なる分野に属する受講生同士が新たな人的ネットワークを構築する場となることも目指しています。
博士インターンシップ 研修	博士インターンシップ 研修	1又は2 ※実施 期間に より決 定	安藤 晃 ・ 工藤 成史	博士課程等	通年	随時	-	日本語	④	博士後期課程の期間中に、日本国内の研究機関や民間企業での実習形式での研修及び研究活動を行う。本研修を通じて大学における研究や博士の能力を社会で活用する方法を学ぶと共に、企業における製品企画・開発や市場調査、品質管理などを実際に体験し、理解する。研修者は研修先および大学と連絡を取り実施する。
再生可能エネルギー・ バイオマス循環	再生可能エネルギー・ バイオマス循環	2	多田 千佳	修士課程等, 博士課程等	第1学期	木	2	日本語	⑤	再生可能エネルギーの中でも、特に、バイオマスエネルギーに注目し、その技術や社会実装について、座学、実験、現場体験、グループディスカッションを行いながら、バイオマス循環について理解を深める。
多文化理解PBL 特別演習	人権教育演習	2	高松 美能	修士課程等, 博士課程等	第2学期	木	3	英語	①③	本コースの目的は、普遍的な概念である「人権」をテーマに、他者と共に学ぶことを通じて、人権を身近なものとして捉え、人権が保障された社会を築くため、日常生活でできることから行動に移す力を育成することにある。そこでは、参加者が個別具体的な人権問題を他者に伝え、他者の経験の聞きながら、自己の「価値観」を振り返り、互いに学び合う。本コースは学部生との共同開講となるため、大学院レベルでの高度教養教育に参加の皆さんは、クラス内で学部生とともに、自己と他者の共生関係を築いていけるよう、積極的に民主的な学習環境づくりを働きかけ、グループディスカッションをファシリテートする力を養うことを目指す。

## 令和6年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育  
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	担当教員	対象課程	開講期	曜日	講時	言語	分類	授業の目的と概要
									①～⑤	
キャリア・スキル 開発特別演習	キャリア・スキル 開発演習	2	米澤 由香子	修士課程等, 博士課程等	第2学期	月	5	英語	③④	本科目では、キャリアを生涯にわたり継続的に学び行動するプロセスととらえ、これからの自身のキャリアを主体的に作り上げていくための知識、スキル、態度を学びます。これらの知識、スキル、態度は、一般的な就職を検討している学生のみならず、研究職を希望する学生にとっても必要な汎用的技能（ジェネリックスキル）といえます。受講生は、①自身のキャリア観の形成にとって有益な知識や情報を得るために、多様な文化的、言語的、教育学習的あるいは職業上のバックグラウンドをもつゲストスピーカーの講義等から学び、②協働することの意義を知るために、履修する仲間との協同学習をおこない、そして③学びの成果を俯瞰し、キャリアに関する目標を立て具体的な行動へとつなげるために、プレゼンテーションやレポートなどの成果を提出します。とりわけ、本科目での学びを最大化するためには、参加する学生同士が発言や傾聴などを通して積極的に他者と相互作用する学習活動が求められます。本科目は学部生対象科目との共同開講となるため、大学院生には、学部生や留学生との対話や議論において先導的役割を担うことで、リーダーシップの養成を目指すことを期待します。
キャリア・スキル 開発特別演習	雇用慣行比較演習	2	末松 千秋	修士課程等, 博士課程等	第2学期	木	2	英語	③④	本コースでは、大企業を中心とした日本の雇用慣行の基本を理解してもらいます。特に英国で発行された書籍の内容を討議することで、日本以外他の国の雇用システムの長所と短所を把握します。日本大企業での一般的人事システムについて、過去20年間で雇用改革が行われた理由を理解し、今後日本の雇用慣行がどのように変革するか洞察すること、も目指します。 大学院学生の皆さんには、クラス内で学部生、留学生とグループ討議を行い、指導的役割を担ってもらうことで統率力、指導力の強化に努めてもらいます。
キャリア・スキル 開発特別演習	意思決定比較演習	2	末松 千秋	修士課程等, 博士課程等	第1学期	木	2	英語	③④	本コースでは、日本企業での意思決定の方法について理解してもらいます。特に英国で発行された書籍の内容を討議することで、日本以外欧米の意思決定システムについても、それらの長所と短所を把握します。コースの目標は、コンセンサス意思決定を迅速に行えるよう、ファシリテーターの役割を実行出来ること、です。 大学院学生の皆さんには、クラス内で学部生、留学生とグループ討議を行い、指導的役割を担ってもらうことで統率力、指導力の強化に努めてもらいます。

## 令和6年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育  
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	担当教員	対象課程	開講期	曜日	講時	言語	分類	授業の目的と概要
									①～⑤	
グローバル・コミュニケーション協働演習	異文化コミュニケーション教育とパフォーマンス演習	2	中野 遼子	修士課程等, 博士課程等	第1学期	火	4	英語	①④	この授業では、異文化コミュニケーション研究の基本的概念を理解し、授業中のワークショップやグループワークを通して、コミュニケーションの複雑さ・難しさ、そして他者理解への認識を深める。そのため、受講生同士のディスカッションや、プロのアーティストのゲスト講師による演劇ワークショップを行う。そして最終的に、パフォーマンス創作課題が与えられ、その中で受講生同士の異文化コミュニケーションを実際に体験することで、相手に自分の考えが伝わるコミュニケーションをデザインする実践力も身につける。 本授業に大学院レベルの高度教養教育として参加する学生は、授業内で起こる異文化コミュニケーションをメタレベルで観察し、授業内のグループワークやワークショップでは受講者同士の交流を促進する役割を担うなど、ファシリテーターとして異文化コミュニケーションをデザインする能力の獲得を目指す。
グローバル・コミュニケーション協働演習	言語コミュニケーション教育とパフォーマンス演習	2	中野 遼子	修士課程等, 博士課程等	第2学期	火	4	英語	①④	この授業では、異文化コミュニケーション研究の基本的概念を理解し、授業中のワークショップやグループワークを通して、コミュニケーションの複雑さ・難しさ、そして他者理解への認識を深める。そのため、受講生同士のディスカッションや、プロのアーティストのゲスト講師による演劇ワークショップを行う。そして最終的に、パフォーマンス創作課題が与えられ、その中で受講生同士の異文化コミュニケーションを実際に体験する。この授業では、言語・非言語コミュニケーションに焦点を当て、異文化コミュニケーションの際に起こる問題を考察していく。 本授業に大学院レベルの高度教養教育として参加する学生は、授業内で起こる異文化コミュニケーションをメタレベルで観察し、授業内のグループワークやワークショップでは受講者同士の交流を促進する役割を担うなど、ファシリテーターとして異文化コミュニケーションをデザインする能力の獲得を目指す。
国際教育演習	Global Studies of Higher Education	2	米澤 彰純	修士課程等, 博士課程等	第1学期	月	2	英語	①③	このコースは、日本および世界の大学のグローバルな文脈を総合的に理解することを目的としています。現代の知識基盤社会では、大学や高等教育が不可欠な役割を果たしています。同時に、現在の大学の特徴は、歴史的な文脈、アクセスや公平性の問題、頭脳獲得・流出や頭脳循環として認識される国際移動と必然的に結びついています。この授業では、以下のトピックを扱います。(1) 高等教育の歴史的起源と現在の動向、(2) 高等教育におけるアクセス、公平性、財政、(3) 知識経済と高等教育、(4) 高等教育の国際的な側面。これらのトピックを通して、受講者は日本および世界における大学の役割と価値を検討することが期待されます。この授業は、大学生活の国際的な文脈を理解する良い機会となります。本コースは学部生との共同開講となるため、大学院レベルでの高度教養教育に参加の皆さんは、クラス内で学部生とともに議論しながら、多様な教育、研究段階の大学のリアリティをより高度で専門的な観点から研究することを期待します。

## 令和6年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育  
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	担当教員	対象課程	開講期	曜日	講時	言語	分類	授業の目的と概要
									①～⑤	
教養教育院特別講義A	memento mori －死を想え－	2	尾崎 彰宏	修士課程等, 博士課程等	第1学期	火	5	日本語	①	人文社会科学分野の第一線で活躍している12人の講師を招き、死をめぐる諸問題と関連する毎回異なるテーマの講演の後、受講生とのディスカッションを行う。受講生からの質問や意見を手掛かりに自由な討論を行い、俯瞰的視野から自身の研究と人生に対する省察を得る。特に博士課程ではさらに得られた学際的視点を自身の研究にフィードバックする。
教養教育院特別講義B	数理モデルの手法と 応用	2	田中 仁	修士課程等, 博士課程等	第2学期	火	4	日本語・ 英語併用	①②	科学においては、各分野においてさまざまな数理モデルが使用されている。ここでは、これらの数理的手法に共通する要素を抽出し、普遍的な立場から、その解析的解法、表計算プログラムを用いた数値的解法を解説し、モデルの有効性、限界を議論する。具体的な例としては、社会的に関心の深いテーマを取り上げる。これにより数理的な視点を深化させ、種々の場面の対処能力を強化する。特に博士課程ではさらに得られた学際的視点を自身の研究にフィードバックする。
教養教育院特別演習	SDGsと人文学科学の 実践的方法と課題	2	尾崎 彰宏	修士課程等, 博士課程等	第2学期	月	5	日本語	①	近年、SDGsがさまざまな所で話題となっている。ここでは、専門分野的な見地から、SDGsに深く関わる研究を紹介し、それに基づき参加者が調査・発表を行い、学問のめざすべき目標、使命を考察することにより理解を深める。特に博士課程ではさらに得られた学際的視点を自身の研究にフィードバックする。